

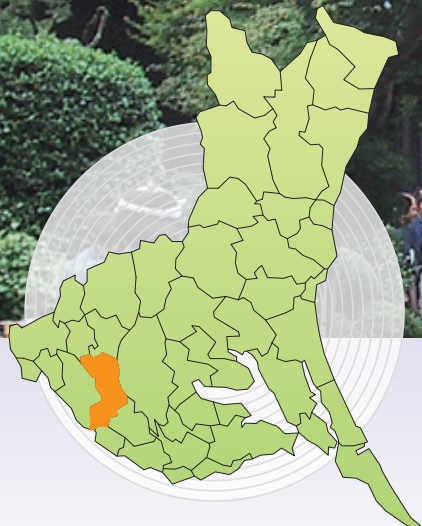
# 支店長のわがまち紹介

第13回

## 茨城県常総市

### ロケの街と農業での発展

坂野家住宅でのロケ風景 写真提供：常総市



茨城県内の44の市町村を、それぞれにゆかりのある筑波銀行の支店長がご紹介します。第13回は、常総市です。

筑波銀行は、“地域復興支援プロジェクト『あゆみ』”に基づき、各自治体との連携を深め、関連を強化して信頼関係の醸成を進めることによって、平成26年8月現在、9つの自治体の指定金融機関業務を取り扱っています。常総市からは、平成26年4月1日より2年輪番制による指定金融機関の指定を受託しました。

水海道支店長の本橋美章が、常総市長 高杉徹氏にお話を伺いました。

#### ●常総市が一番と考えていること、自慢できることはなんですか。

##### ■ロケの街 常総

年間100本以上のロケが行われ、全国で1、2を誇るロケの街です。平成26年7月中に1,111本に到達する見込みです。25年6月に1,000本を達成した際、ロケが行われていた石下中央公民館で記念イベントを行いました。1,111本達成時にロケ現場で記念イベントを行うことを今から楽しみにしています。

常総市で盛んにロケが行われるようになった理由は4点あります。1点目は、東京から50km、1時間の距離にあり、日帰りでロケができることです。2点目は、ロケに適した自然と歴史的建造物が多くあることです。鬼怒川、小貝川が流れ、その周辺には豊かな自然が残っています。長塚節生家、坂野家住宅、五木宗レンガ蔵、二水会館、旧報徳銀行水海道支店等、江戸時代から大正時代まで幅広い期間の歴史的建造物が多数あります。3点目は、宿泊施設が充実していることです。関東鉄道常総線水海道駅前の2つのホテルや公営の水海道あすなろの里があり、大人数のロケ隊も宿泊可能です。4点目は、常総市がロケハンから実際のロケまで全面協力している点です。

日本の映画史、テレビドラマ史に残る有名な作品のロケ地であることも自慢です。常総市のロケ第1号作品は当市生まれの長塚節原作の映画「土」で、風見章子主演で昭和14年に鬼怒川河川敷でロ

ケが行われました。その後も、昭和38年に映画「路傍の石」、昭和39年に映画「無法松の一生」、昭和52年にテレビドラマ「野菊の墓」、昭和62年に映画「男はつらいよ」等のロケ地になりました。現在のロケの効果は宿泊や弁当の代金収入です。今後は、ロケ地として選ばれる理由を活かし、ロケを通じて常総市全体の経済と文化の発展を図っていきます。

##### ■行政は最大のサービス産業

重点的に取り組んでいる政策が3点あります。1点目は、「行政は最大のサービス産業であり、行政のサービスは市民を幸せにすること」をモットーに、市民のニーズに積極的に対応することです。平成25年1月より日曜日も開庁し、25年4月より鬼怒川の西側の地区の利便性向上のため、水海道総合体育館、石下総合体育館でも住民票と印鑑登録証明書の発行を始めました。

##### ■読書教育

2点目は、子供たちの教育を充実させることです。まず、読書教育の充実です。市立図書館の開館時間を9時から19時までに拡張しました。平成26年7月から8月の夏休み期間は、月曜日も開館する予定です。子どもたちには毎日朝早くから図書館を利用してもらいたいです。また、平成26年6月から茨城県内初の取組みとなる国立国会図書館のデータベースの閲覧を開始しました。市立図書館と学校図書館の司書の交流・連携を図り、学



高杉市長

校での朝の読書を推進しています。幼い頃から本好きな子もいれば、成長してから読書に目覚める子もいます。読書に親しむ年齢は子供によって異なるので、読書の強制ではなく機会を提供することが読書教育です。

また、子供たちに自分の考えをはっきりと伝える力を身につけてもらうため、平成25年度より弁論大会「少年の主張」を始めました。市内の5つの中学校から代表者を2名ずつ選び、合計10名の「主張」を会場の中学校の生徒の前で発表するのです。テーマは自由で、学校、家族、悩み、夢など多岐にわたりました。同じ地域に住む同世代の言葉は非常に心に届き、大いに刺激になったようです。

### ■少子化対策

3点目は少子化対策です。まず、市民が安心して子育てできる環境を整備することから始めます。若い世代が安心して子育てをしながら生活する必須条件は、①教育機関が充実していること ②小児科の診察体制が整い、休日・夜間も診察を受けられること ③住宅が整備されていること ④買物が便利なことです。これらの条件を満たすよう取り組みます。子どもの医療費支援は平成25年4月から中学校3年生まで拡大しました。平成25年11月より、きぬ医師会病院に小児科の常勤医が赴任し、週5日の診療体制が整いました。平成26年4月から子どもを望む方々の不妊治療の費用助成を始めました。1回の治療に5万円まで助成し、受けられる回数は年2回、通算10回です。平成26年度中に旧みつかいどうプラザの跡地にスーパーを誘致します。今後も産婦人科の充実を含めた生活環境の整備を進めていきます。

### ●筑波銀行に期待することはなんですか。

指定金融機関として、水海道庁舎と石下庁舎に派出所を設置しました。市民の方々に活用され、効果があがっています。住宅取得を支援する商品開発にも期待しています。また、市が開催するイベントの際には、水海道支店の皆さんのボランティアでの参加や、出演者控室やトイレに支店を使わせてもらい、協力体制がしっかりとでき上がっていることが非常にありがたく、頼もしく感じています。近隣の支店でも、休日もトイレや駐車場が開放されており、銀行全体で地域に溶け込み活用されることを目指す姿勢に共感しています。

### ●今後の展望について教えてください。

物流施設プロロジスパーク常総が内守谷工業団

地内に平成26年11月に竣工予定で、物流拠点として注目されています。

平成27年度までに茨城県内の圏央道が開通し、国道294号線と交差して常総インターチェンジが設置されます。

常総インターチェンジ周辺は優良な農地が広がり、農地転用して企業を誘致するだけでなく、もともとの農地を活用し、生産・加工・販売・流通を一つにまとめた施設を設置し、周辺を農業再生モデル地区にする計画を検討しています。昨今、食品の安全性が重要視されており、消費者のニーズは安ければよいというものではなくなってきていると感じています。茨城県銘柄産地指定の千石キュウリやズッキーニといった常総市の名産に加え、茨城県内で生産された農作物を常総市から首都圏に発信します。

食の安全性、自然保護、環境保全の観点からも農業は守っていかなくてはならない産業で、子供たちが土に触れることは教育上たいへん大きな価値があります。二種兼業農家、週末の家庭菜園も大切にし、日本の産業の基本は農業であるという原点に帰る取組みを進めます。

市内に4つある工業団地は食品製造業が多く立地していることが特徴です。平坦な地形、鬼怒川・小貝川等の豊富な水資源が食品加工に適しているのです。常総市の製造品出荷額は茨城県第8位と多く、今後も農業の推進につながる食品製造業を中心に工業の推進も進めていきます。

観光面で常総市をアピールするために、ロケの街に加え自転車での観光を進めます。歴史の古いまちで小道も多く、自転車での散策が似合うまちです。市内の常総線の7つの駅の駅前や駅周辺の施設にレンタサイクルを配置しています。また、あすなろの里、十一面山を中心に豊かな自然を広く宣伝し、たくさんの方々に来てもらいたいと考えています。あすなろの里はさまざまな体験ができる施設で、今年は、東京から小学生660人が田植えに訪れています。

### ●常総市からのお知らせ

8月1日(金)～8月10日(日)に常総市生涯学習センターで「常総市星野富弘 花の詩画展」を開催します。この地域初の開催で、ぜひ皆様に見に来ていただきたい展覧会です。

